

'15 日本のガラス展

挑戦する現代ガラス

同時特別公開

エミール・ガレ／藤田喬平／他 収蔵ガラス作品

平成28年

8月4日(木)～10月2日(日)

※会期中無休。但し、作品入替のため9月2日(金)は閉場。

前期 8月4日(木)～9月1日(木)

後期 9月3日(土)～10月2日(日)

◆ 会 場

パラミタミュージアム 2階展示室

◆ 開館時間

午前9時30分～午後5時30分
(最終入館は午後5時まで)

◆ 入館料

一般 1,000円(4枚セット券3,000円)

大学生 800円／高校生 500円

中学生以下無料

■ 主 催

公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム、
日本ガラス工芸協会

■ 後 援

文化庁、一般社団法人日本硝子製品工業会、
日本ガラス工芸学会、公益社団法人企業メセナ協議会認定、
中日新聞社、伊勢新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、
NHK津放送局、三重テレビ放送

関連イベント

■8月14日(日)／9月11日(日)

いずれも午後2時～

日本ガラス工芸協会会員によるギャラリートーク

■8月4日(木)～9月1日(木)

「'15 日本のガラス展」出品作家の作品販売

小ギャラリー ※入場無料


paramitamuseum
公益財団法人岡田文化財団

公益財団法人岡田文化財団
パラミタミュージアム

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6

Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077

E-mail office@paramitamuseum.com

http://www.paramitamuseum.com

Facebook www.facebook.com/paramitamuseum

Twitter @paramita_muse



「蕾」新倉 晴比古
撮影：松井 良浩
JGAA賞受賞

'15 日本のガラス展

挑戦する現代ガラス

日本ガラス工芸協会は、ガラスと人々との結びつきを深め、文化の発展向上に寄与することを目的に、ガラスによる創作にかかわる人々によって創設された日本で初めての団体です。

1972年の協会創設以来3年毎に開催される「日本のガラス展」は、同協会事業の柱となる展覧会であり、毎回会員による個性豊かな新作が出品されます。その質の高い内容は、国内及び海外においても高く評価されています。13回目の開催となる本展ではサブタイトルを「挑戦する現代ガラス」とし、表現においても技法においても日々進化し、挑戦し続ける現代ガラスの最先端をご紹介します。また、16年ぶりに一般公募部門を復活させ、意欲ある作家の出品を募り、35名の作品が入選しました。

巡回先である当館では、会員81名と公募入選者35名を合わせた116名の最新作を前期・後期に分けて展示します。また同時に当館所蔵のエミール・ガレ2点、新収蔵の藤田喬平8点を含むガラス作品を特別公開します。多くの方に現代ガラスの魅力に触れていただき、ガラスの表現の可能性を感じていただける機会となれば幸いです。

前期		後期	
■協会会員作家			
朝倉 節子	黒木 国昭	副島 太郎	古田 利一
阿部 優生子	古池 由紀雄	高木 ひろ子	ホンムラモトソウ
飯塚 久美	小島 誠	立花 江津子	馬上 知加子
生田 哲	後藤 かよ子	田邊 玲子	増田 ひで子
石田 恵子	小西 晃	谷 祥一	松浦 あかね
石橋 忠三郎	小林 淑	玉田 恭子	松浦 健司
石原 秀文	小森 貢郎	近岡 令	美津石 紘詩
磯谷 晴弘	小山 けい子	張 慶南	八木 洋子
上島 あい子	斎藤 ゆう	塚村 剛	安田 泰三
上野 ツカサ	齊藤 幸夫	中村 和美	安田 麻里
宇知田 アサコ	坂本 隆子	鍋田 尚男	山口 浩二
海藤 博	佐川 光信	新倉 晴比古	山科 昌子
加藤 千秋	佐々木 雅浩	西 悦子	山田 えい子
金子 正人	島村 信一	西出 眞	山田 輝雄
上山 俊一	下嶋 理依子	野田 雄一	山野 宏
神田 正之	品川 明子	橋本 和代	山本 えりこ
菊樂 ゆみ	白幡 博	長谷川 秀樹	横山 尚人
北 泰子	鈴木 剛史	広沢 葉子	吉井 ころこ
北島 雅子	鈴木 伊美	藤田 潤	力石 直子
栗田 保久		藤巻 晶子	渡部 和恵
		藤原 信幸	金澤 碧
■公募出品作家			
朝倉 祐子	柏村 直樹	たかぎ あきこ	保木 詩衣史
荒井 尚之	勝川 夏樹	多田 えり佳	堀 正直
有田 佑	国広 育伸	辻 満希憲	松本 大督
有永 浩太	桑原 あずさ	津守 秀憲	桃原 和広
市川 篤	小池 志麻	鄭 継深	山崎 純子
今井 瑠衣子	神代 良明	富樫 葉子	山本 菜央
井本 真紀	小曾川 瑠那	永井 香織	吉田 成美
大槻 洋介	齋藤 直	中原 司	吉田 延泰
小野 真琴	関野 栄美	藤井 哲信	

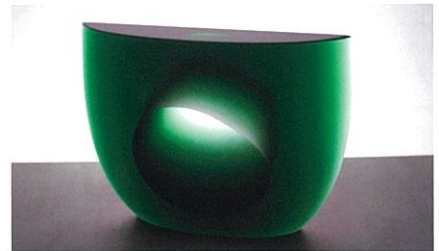
※協会会員リストは2015年時のものです。



「繋ぐ時～還」上島 あい子 撮影:小田喜 逸朗



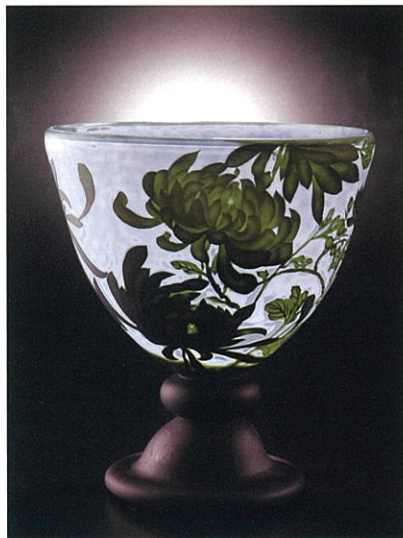
「丸と四角」上山 俊一 撮影:伊藤 裕康



「空間151」張 慶南



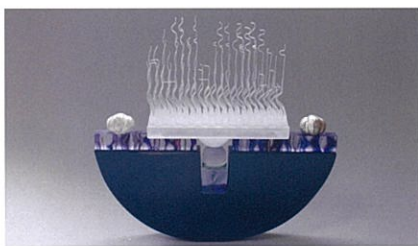
「水の記憶」上野 ツカサ



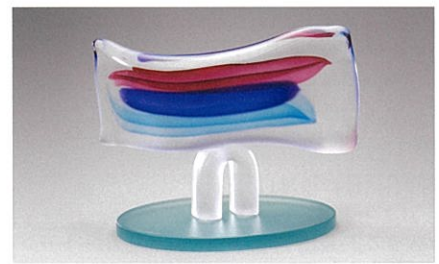
「花鏡う」飯塚 久美



「種子のかたち(小文間の植物シリーズ)2015-2」藤原 信幸
撮影:小田喜 逸朗



「グローイング、2015.すべーすしゅぷ」増田 ひで子



「水の響」藤田 潤

次回展示のお知らせ

会期 平成28年 10月7日(金)～11月13日(日) 大観・玉堂・龍子展

- ・ 明治から昭和にかけて日本画壇を牽引した横山大観(1868～1958)
- ・ 美しい日本の原風景を探し求めた川合玉堂(1873～1957)
- ・ 日本画の世界に新風を巻き起こした川端龍子(1885～1966)

それぞれの画業にまい進したこの三巨匠ですが、昭和27～32(1952～57)年に「雪月花展」「松竹梅展」を開催し、三人で合作するなど幅広い芸術活動を展開させました。本展では大観・玉堂・龍子が昭和29年に発表した三幅対「雪月花」、昭和30年に発表した三幅対「松竹梅」を中心に、それぞれが目指した芸術を紹介します。(三幅対…三幅で一組になった掛軸)

- お車をご利用の場合 / 東名阪「四日市IC」より国道477号(湯の山街道)を湯の山方面へ約6.5km。 ■ 無料駐車場有り(普通車100台、大型バス駐車可)
- 電車をご利用の場合 / 近鉄「四日市駅」下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分、「大羽根園駅」下車、西へ300m。 ■ 全館バリアフリー、車椅子常備

